

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2023年 第5週（1月30日～2月5日）

今週のコメント

～インフルエンザ～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用が重要

定点把握感染症

「インフルエンザ 警報レベルに迫る」

第5週の小児科定点・眼科定点疾患の報告数の総計は1,537例であり、前週比0.9%増であった。

定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、流行性角結膜炎、突発性発しん、RSウイルス感染症の順で、それぞれ6.88、0.37、0.19、0.15、0.15である。

感染性胃腸炎は前週比5%増の1,335例で、南河内11.50、大阪市西部8.10、大阪市北部8.00、豊能7.30、中河内7.20であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は36%減の71例で、大阪市南部1.11、中河内0.65、大阪市北部0.43である。

流行性角結膜炎は67%増の10例で、南河内0.75、中河内0.60、大阪市南部0.50であった。

RSウイルス感染症は12%増の29例で、大阪市西部0.40、大阪市北部0.36、北河内0.24である。

インフルエンザは23%増の8,913例で、定点あたり報告数は29.91であった。南河内50.29、大阪市北部39.50、堺市36.75、大阪市西部36.27、北河内33.85、泉州31.66と府内6ブロックで警報レベルの基準値30を超えている。2023年1月までに大阪府内で検出されたインフルエンザウイルスはすべてAH3であった。

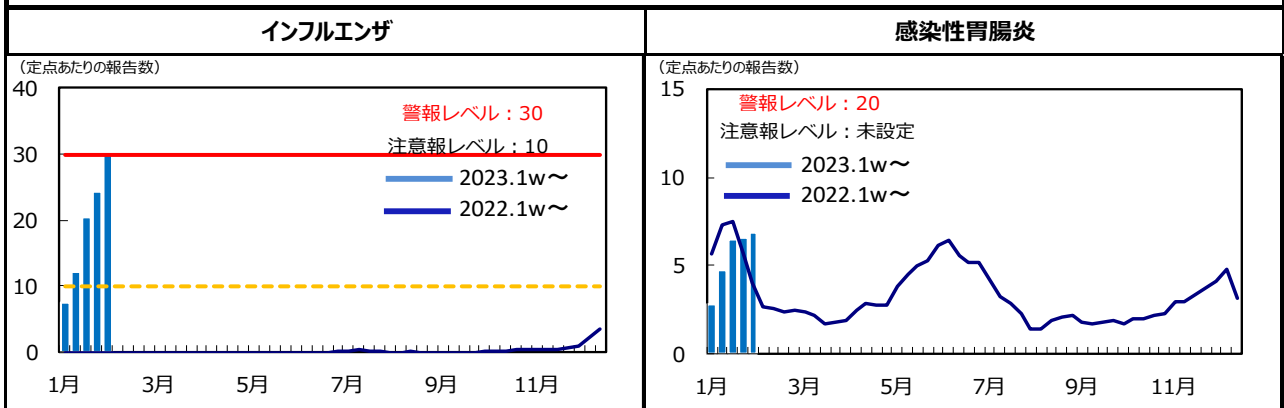


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2023年 第5週1月30日～2月5日）

第5週の順位	第4週の順位	感染症	2023年 第5週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2022年 第5週の 定点あたり 報告数	2023年第5週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	6.88	5%増	4.07	1歳_15%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.37	36%減	0.22	4歳_23%
3	6	流行性角結膜炎	0.19	67%増	0.06	20歳以上_40%
4	3	突発性発しん	0.15	3%増	0.16	1歳_40%
5	5	RSウイルス感染症	0.15	12%増	0.25	1歳未満_31%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	29.91	23%増	0.02	10-14歳_21%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。第36週からインフルエンザの新シーズンの集計が始まりました。

第5週のコメント

～梅毒～ 大阪府および全国における梅毒年間報告数は、2022年著しく増加した

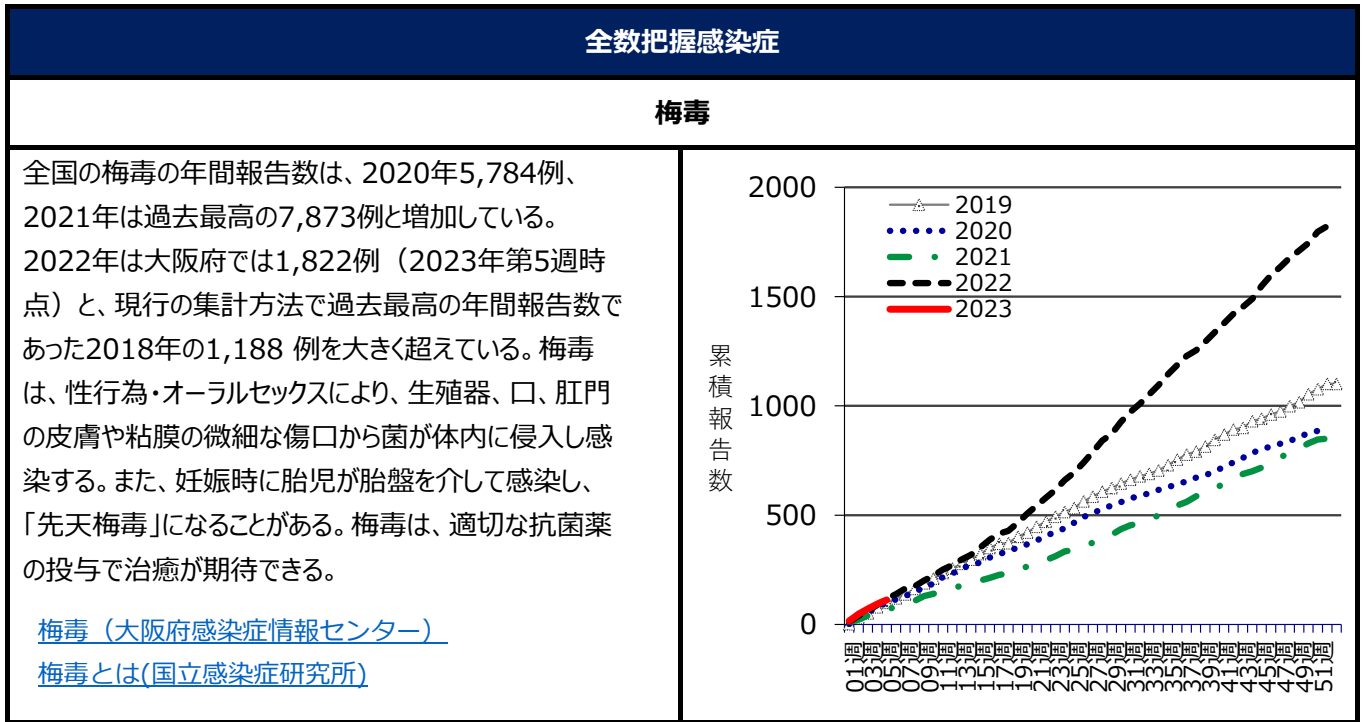


表2. 大阪府全数報告数（2023年 第5週1月30日～2月5日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数	
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1		1							11	
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2		2							7	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1								1	9	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1					1				2	
	梅毒	19	1		2	1			2	13	112	
	百日咳	1								1	3	
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	19,779	2020年1月以降累計 2,782,600									
結核 (2022年12月分)	結核 新登録患者数：87名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 33名)	(府内累積報告数 1,117名、内 肺・喀痰塗抹陽性 446名)										

(2023年2月7日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の『令和2年11月2日以降』の情報をご覧ください。](#)